行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所　村上研究室

論文―その世俗的な話し―

林 知己夫

論文を書きたい，論文を書かねばならぬという話しをよく耳にする。よい研究をしたいというなら話は解る。論文を書くために，研究するというのであれば本末転倒である。何のために研究者になったのか。自分の好きな研究をしたい，学術・文化に貢献する研究を夢に抱いて，研究者になったのではないか。よい研究をしなくて，よい論文ができるわけがない。あらためてよい研究とは何かを論ずる必要はないが，発想に洞察力があり，これから導かれる方法や結果が人の心を打つものであることは必須の条件の一つである。

このごろの研究論文--学会誌に載っているもの--をみていると，一見して何か解のわからぬ表題がついており，いかにも深遠そうに見える。内味を読んでみると，あたりまえのようなことが事々しく妙な言葉を使って書いたり実験したりしている。あたりまえのことは，実に複雑で，実験でわかるような浅薄なものではない。論文はあたりまえのことの一部が事々しい概念と理論で取り扱われることで出てきたことなど実につまらぬどうでもよいようなことである。つまり，何の貢献もしない紙屑のようなものである。これが論文で，こんなものが書きたいのかと不思議な気分になる。

問題の設定で，科学で取り扱うことが意味のないものと，取り扱うことで意味のあるものとがある。科学は所詮平均値の議論である。母集団（厳密にはユニヴァース）の平均値や構造の問題である。個々のものにそのまま妥当するとものとは限らない。しかし，平均や構造をみることで大きな知見を得ることができ，さらに個々を介して新に発展の道を辿ることになる。これが科学である。特殊と一般の峻別であり，よりレベルの高い統合である。この繰り返しである。例をあげれば医学は平均値であり構造であり，そのまま個人の治療に通ずるとは限らない。治療は医学，薬学など諸科学の成果をポテンシャルとする個人のプロセス・コントロールである。これは，人により様々であるが，この個々の「様々」のなかから新たな平均値・構造が見出され，医学が発展する。個を捨象することにより見えてくるものを取り扱うことにより，医学（科学）が発展する。こういう考えに立ち，現象をいかに科学的に解明するかが研究の出発点であるべきである。これを意識し土台としない研究は無意味なものとなる。

意味の乏しい論文が多数生産されるのは，形式的な業績評価という下らぬものが横行するからでもある。論文の数，頁数などが問題になる。質は評価のしようがないからというのが評価側の言い分である。質こそ大事なので，これが評価できないのならやめたらよい。優れた研究者を育て優れた研究が出来上がることを狙って評価するのが本道ではないか。優れた研究者をだめにし，優れた研究ができないようにする業績評価に専念しているのが今日の大学や研究所の雰囲気のように思える。外部評価など正にナンセンスそのものを有り難がることこそ日本の研究阻害の近道である。外部評価は「桃李，もの言わずして，下おのずから蹊を成す」というべきものであろう。

研究論文の生産，さらに遡って研究の発想，下って評価のあり方，すべて，日本の研究が駄目になるように人々が心胆を砕いているのであるから，これを断ち切って正道にもどすのは個々の人々の心の中の問題という他はない。

論文を感動して読むことは楽しいものである。私の経験で申し訳ないが，かつて論文を読んで感激し，「数学」とはこんなに面白いものかと思ったものである。確率論を勉強していたとき，von Mises の確率論の最初の論文を読んだとき，大変な感動を味わった。こんなに面白い数学があるかと思った。von Neumann のゲゼールシャフツシュピールを読んだときも全く同様に感動した。彼のエルゴート定理の大証明を読んだときも同じだった。A. Wald のコレクティフの存在証明，von Mises の Probability, Statistics and Truth の初版を読んだときも血湧き肉躍る感じを抱いたものである。こんな面白い数学をやらぬ手

はないと思い，酔ったような日々を過ごしたことを覚えている。

統計学をやれと先生に言われて統計学の本や論文を読んだとき，実にいい加減でつまらぬものだと感じた。しかし統計学の面白さは「知行合一」にあるということを知ったとき，知るのではない体験したとき，これに心をゆさぶられた。以後私の研究に空理空論はない。常に知行合一，止観という形をとっており，これ以外はやらぬという立場でいる。

論文を書くということは，オーケストラの指揮者の演奏のようなもので，優れた成果をどのように演出して見せるかというのに似ている。人々に感激を与えないような演出（演奏）は詰まらぬものである。詩人は詩を書いて自らの詩にほだされて涙を流すと同様に，研究者は自らの研究結果を論文にするとき感激し，涙をながし草稿に涙の「しみ」が残るというのはよいではないか。今日ならワープロのキーボードが涙に濡れて駄目になるなど楽しいことではないか。

2000年立春

（はやし ちきお，統計数理研究所名誉教授，行動計量学会理事）

平成11年度第4回理事会報告

日 時：平成11年11月8日 PM6:00～7:30
場 所：大学入試センター
出席者：江川 清，岡太 彬訓，繁桝 算男，杉山 明子，垂水 共之，前川 眞一，村上 隆，村上 征勝，柳井晴夫，柳原 良造，山岡 和枝，吉野 諒三
議題：

1. **第27回大会（平成11年度）について**
   垂水第27回大会実行委員長より第27回大会に関し以下のような報告があった。
   一般講演57件，特別セッション9，講演54件，特別講演2件で講演総数は113件，また参加者は一般235名，特別講演26名，賛助2名，別枠4名，合計267名であった。収入は参加費2,487,000，支出は2,425,493で約6万強の黒字であった。
2. **第28回大会（平成12年度）について**
   繁桝第28回大会実行委員長より第28回大会の準備状況について以下のような報告があった。
   ・11月2日に事務局会議を開催した。日程は10月6日～8日の予定を10月7日～9日に変更した。
   ・ホームページを立ち上げる準備をしている。
   ・いくつかの実質科学の学会(顔学会，OR学会，マーケットエンジニアリング研究部会，土木学会，ファジイ学会，体育学会，発達心理学学会…)に協賛していただくという型を考えている。
   ・第1号通信を1月に出す予定
3. **学会賞選考委員委員長の選出**
   学会賞選考委員長として村上征勝理事を選出した。
4. **各種委員会報告**
   - 久保和文誌編集委員長に代り事務局より和文誌の編集状況について報告があった。
   - 繁桝欧文誌編集委員長より欧文誌の編集状況について報告があった。
   - 岡太運営委員長より行動計量シンポジウムとして，「臨床評価の信頼性」（仮題）応用統計学会との共催を予定、「言語の国際比較調査」（仮題）（以上，今年度中の開催を予定），「インターネット調査」（仮題）日本分類学会と共催予定，「平均への回帰」（仮題）を計画しているとの報告があった。講習会「行動計量学に役に立つフリーソフトウェア」は 1999 年9月19日に実施し，参加者は14名であった。第3回春の合宿セミナーを愛知学院大学にて開催予定（2000年3月30日（木）～4月1日）である。小グループ研究会については平成 11 年度より会報への活動報告掲載，「行動計量学」へ研究成果を公表し，各小グループ研究会のホームページを作成する。
5. **その他**
   ・理事選挙の日程について報告があった。
   ・インターネットから学会入会申込書がダウンロードできるようにして欲しい旨の要望があり了承された。
   ・会員の移動状況が報告された。
   ・会員の逝去の際の学会の対応については他学会の情報を集め検討することになった。
   ・水野欽司前理事長のご逝去に際し，学会から花輪をお送りした旨，報告があった。

選挙結果報告

先日実施された日本行動計量学会役員選挙の投票結果を以下のように報告します。

選挙管理委員会 市川雅教，土屋隆裕，吉野諒三

投票締切り：平成１１年１２月７日（水）（当日消印有効）

理事選挙有効投票数 １３４通

監事選挙有効投票数 １１５通

当選者（五十音順）

1. **理事**

飽戸 弘，池田 央，市川伸一，市川雅教，岩崎 学，

岩坪秀一，海野道郎，大隅 昇，狩野 裕，岡太彬訓，林 知己夫，林 文，久保武士，後藤昌司，斉藤堯幸，繁桝算男，杉山明子，高木廣文，垂水共之，前川眞一，村上 隆，村上征勝，柳井晴夫，山岡和枝，吉野諒三 以上２５名

2. **監事**

丘本 正，宮原守男 以上２名

第28回大会のお知らせ

既報のように，第28回大会が平成12年10月7,8,9日(3連休です)に，東京大学駒場キャンパスで開催されます.多様な研究の発表をお待ちしています。HPで，参加申し込み，発表申し込みができます。
url:http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/
★締め切り，6月20日(火)
もちろん，郵送でもかまいません。
特別セッションのご提案もお待ちしています。その他の点は，第1号通信をご覧ください。

繁桝算男(大会実行委員長)
bsj2000@bayes.c.u-tokyo.ac.jp
tel: 03-5454-6267, tel/fax: 03-5454-6186

日本行動計量学会主催

第３回春の合宿セミナーのご案内

（第２報）

恒例となりました，日本行動計量学会主催春のセミナー（第３回）のご案内を以下のようにさせていただきます。序報でも紹介しましたように，標記セミナーは，心理学・社会学・教育学など主に社会行動科学を専攻する大学生・大学院生・研究者，そしてより広く統計ユーザーを対象に，統計的手法をわかりやすく教える講習会です。第１回は東大検見川セミナーハウスで100名強，第２回は阪大人間科学部で200名を超す参加者を得，大変好評でした。今年もふるってご参加いただきますようお願い致します。

日程：平成１２年３月３０日（木）～４月１日
場所：愛知学院大学日進学舎（名古屋駅から地下鉄で３０分弱で終点藤ヶ丘下車ののち，名鉄バスで１０分で愛知学院大学下車）
定員：２００名（限定）
運営委員長 岡太彬訓
（立教大学社会学部 okada@rikkyo.ac.jp）
企画責任者 千野直仁（愛知学院大学文学部）
chino@dpc.aichi-gakuin.ac.jp
村上 隆（名古屋大学教育学部）
a40169b@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
野口裕之（名古屋大学教育学部）
c31314a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp

なお，場所の詳細，参加費，セミナーのプログラム内容等につきましては，詳しくは，本セミナーのURL：
http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~chino/sem2000/first_hp.shtml
をご覧下さい。また，セミナーに関する詳しい内容についてのご質問は，千野までお寄せ下さい。

★参加申し込み

２月中の予備登録で参加者の資格，宿泊日程，ホテルなどについてお知らせいただき，３月上旬予定の正式登録でより正確な情報をお知らせいただきます。

予備登録については以下の通りです：

I.予備登録

申込先：千野まで email または fax でお申し込み下さい。
1) email の場合： chino@dpc.aichi-gakuin.ac.jp
2) fax の場合：05617-3-8179
「宛先：愛知学院大学文学部 千野直仁」
締め切り：平成１２年２月末日
登録内容
(1) 氏名
(2) 所属
(3) 日本行動計量学会会員の会員/非会員の別
(4) email アドレス（または fax 番号）
(5) 参加予定日
(6) 宿泊場所・予定日
宿泊については以下の４つのオプションのいずれかを選択して下さい。なお，学生及び大学院生については，３月２９日，３月３０日，３月３０日までの期間に限り，学会より一泊 2500 円（最大 3 泊分）の補助を行いますので，宿泊の証拠となるものをセミナー期間中にご呈示下さい。ただし，愛知学院大学宿泊施設は一泊 2000 円ですので，補助対象には致しません。

a) 実行委員会推薦のホテル
東横イン名古屋錦
http://www.inn-info.co.jp/toyoko-inn/nishiki.html

もしくは同，丸の内
http://www.inn-info.co.jp/toyoko-inn/marunouchi.html
東横イン名古屋錦及び同丸の内共，栄地区にあります。料金は，税別サービス料込みで，シングル5800円，ダブル8300円，ビジネスツイン8800円です。上記ホテルのホームページ上でも予約できます。
b) 愛知学院大学宿泊施設
ただし，当施設は定員が最大１６名ですので，先着１６名まで，大学生及び大学院生に限って利用できます。和室４，洋室１２
c) 自分で好きなところを探す
d) 宿泊しない
(7) 懇親会への参加の有無
a)（第１日目の学院会館での懇親会，第２日目の花見会）両方とも参加する
b) 第１日目（の学院会館での懇親会に）のみ出席する
c) 第２日目（の花見会に）のみ参加する
d) いずれにも参加しない

登録例

1) 氏名：鈴木ぎん
2) 所属：名古屋長寿大学
3) 日本行動計量学会会員
4) email:gin-s@choju-univ.ac.jp
5) 参加予定日：3/30,3/31
6) 宿泊場所・予定日：東横イン名古屋丸の内・3/29,3/30
7) 懇親会：両方とも参加する

なお，予備登録については，以下のURLにも詳しく説明してあります：
http://www.aichi-gakuin.ac.jp/~chino/sem2000/second_hp.html

II.正式登録

つぎに，正式登録は３月上旬に開設する当セミナーのURL上で行って下さい。なお，正式登録は，２月１日から始まりました予備登録を済ませた方しか出来ませんのでご注意下さい。

★懇親会・花見パーティ

セミナーでは，勉強と同時に参加者の「懇親」を計ることも重要なキーワードです。第１日目には懇親会（学院会館），第２日目には花見パーティ（グリルリンデン）を企画しました。こちらの方にも奮ってご参加下さい（前者は，会費３０００円，後者は無料です）。

★セミナーの講師及び演題

セミナーの講師と演題が以下のように正式に決まりました。なお，演題のアブストラクトについてはセミナーのURLをご覧下さい：

３月３０日（木）

午前：基調講演「多変量解析とは何か - 私ならこう教える -」
柳井晴夫（大学入試センター・本学会理事長）
午後：項目反応理論の産業・組織心理学における応用
渡辺直登（慶応大学），野口裕之（名古屋大学）
多重比較法の基礎とその限界
永田靖（早稲田大学）
ブートストラップ法の理論と応用－共分散構造分析を中心に
市川雅教（東京外国語大学）

３月３１日（金）

午前：データ解析のための線形代数（初級）
前川眞一（大学入試センター）
ベイズ統計学を知らないと論文は書けなくなる？
繁桝算男（東京大学）
午後：共分散構造分析は，パス解析，因子分析，分散分析のすべてにとって代わるのか？
狩野裕（大阪大学）
指定討論者：南風原朝和（東京大学），前川眞一（大学入試センター），服部環（筑波大学）

４月１日（土）

午前：データ解析のための線形代数（中級）
岩崎学（成蹊大学）
IRT セミナー (1)
オーガナイザー：繁桝算男（東京大学），野口裕之（名古屋大学）
午後：共分散構造分析の応用-モデル構成の実践のために
鈴木督久（日経リサーチ）
質問に答えて
講師は会期中に指定（複数）
IRT セミナー（2）
オーガナイザー：繁桝算男（東京大学），野口裕之（名古屋大学）

第７回日中統計シンポジウムのお知らせ

第7回日中統計シンポジウムは標記のように2000年秋に東京で開催されます。

新しい世紀に向かって両国の統計関係者が集まり有意義なシンポジウムにいたしたいと考えております。ご参加をお待ちしております。

組織委員長　広津 千尋

日本側組織委員会: 會田雅人，浅野長一郎，市村真

一, 一村 稔, 上坂浩之, 江島伸興, 大西 広,大橋孝郎, 栗木 哲, 新村秀一, 田栗正章, 竹村彰通, 椿 広計, 直井 優, 林 知己夫,伴 金美, 広津千尋, 松田芳郎, 山口和範

日本側プログラム委員会: 竹村彰通(委員長), 江島伸興, 栗原考次, 栗木 哲,佐藤義治, 椿 広計, 吉岡完治, 美添 泰人

後援団体: 日本応用統計学会, 日本経済統計学会, 日本計算機統計学会,日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会,日本品質管理学会, 東京都, 文部省統計数理研究所, 総務庁統計局,中国確率論数理統計学会, 中国国家統計局, 中国統計学会

参加要領

日時　2000年10月28日(土) - 11月1日(水)
場所　国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
参加費 15000円　(学生 5000円)
　登録期限　2000年6月30日
　予稿期限　2000年8月31日
　予稿枚数　A4 2 ページまたは 4 ページ
(詳しい書式は以下のホームページをご覧ください)
　http://www.e.u-tokyo.ac.jp/jcstat7/

プログラム委員会宛先：竹村彰通
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学経済学部
FAX: 03-5841-5521
e-mail: A.Takemura@e.u-tokyo.ac.jp

関連学会等カレンダー

<学会大会等>

☆第 29 回数理社会学会大会

会　期:2000 年 3 月 16 日(木), 17 日(金)
会　場:法政大学多摩キャンパス
　(町田市相原町 4342)
照会先:〒194-0298　町田市相原町 4342
　法政大学社会学部　徳安　彰　研究室
　TEL:042-783-2395(直通)
　FAX:042-783-2370(社会学部資料室)
　e-mail: atokuyas@mt.tama.hosei.ac.jp
　http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jams/japan

☆日本OR学会平成12年度春季研究発表会

会　期:2000 年 3 月 27 日(月)－3 月 28 日(火)
会　場:名古屋工業大学
　(名古屋市昭和区御器所町)
照会先:
　〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町　名古屋工業大学生産システム工学専攻　大鋳　史男
　Tel: 052-735-5393　Fax:052-735-5401
　E-mail: ohi@system.nitech.ac.jp
　http://www.orsj.or.jp/labo.html

☆日本発達心理学会第 11 回大会

会　期:2000 年 3 月 27 日(木)～29 日(金)
会　場:東京女子大学
照会先:日本発達心理学会第 11 回大会準備委員会
　〒167-8585　東京都杉並区善福寺 2-6-1
　東京女子大学文理学部心理学研究室内
　FAX: 03-3399-9745
　E-mail: hattatsu@twcu.ac.jp
　http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsdp/

☆2000 年度日本計量生物学会・応用統計学会合同年次大会

会　期:2000 年 5 月 11 日(木)～12 日(金)
会　場:総評会館
　千代田区神田駿河台 3-2-11
　(JR 御茶ノ水駅下車徒歩 7 分)
特別講演:
　廣津千尋(東京大学)「分散分析を超えて」
　三浦良造(一橋大学)「金融工学と応用統計」
特別セッション:「がん検診の有効性評価を考える」
照会先:合同年次大会連絡委員会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F (財)統計情報研究開発センター内
　FAX: 03-5467-0484
　E-mail: abstat@sinfonica.or.jp

☆日本計算機統計学会第 14 回大会

会　期:2000 年 5 月 25 日(木)～26 日(金)
会　場:鹿児島県市町村自治会館
　鹿児島県鹿児島市鴨池町新町 7 番 4 号
　TEL: 099-206-1010 / FAX: 099-206-1052
照会先:日本計算機統計学会第 14 回大会事務局
　〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-35
　鹿児島大学理学部数理情報科学科 内
　TEL: 099-285-8039 / FAX: 099-285-8051
　E-mail: jscs2000@sci.kagoshima-u.ac.jp
　http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/newmath/jscs2000/

<シンポジウム等>

☆応用統計学会・日本行動計量学会合同ワークショップ「臨床評価の妥当性と信頼性」(詳細別紙)

日　時:2000 年 3 月 11 日(土) 13:30～17:00
会　場:成蹊大学 10 号館 12 階ホール
　(東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1)
　地図:http://www.seikei.ac.jp
参加費:2000 円(資料代含む)
照会先:成蹊大学工学部　岩崎　学
　tel:0422-37-3764, E-mail:iwasaki@is.seikei.ac.jp

☆第 8 回日本人間工学会システム連合大会

日 時:2000年3月16日(木)～18日(土)
会 場:八王子大学セミナーハウス
(東京都八王子市)
分 野:視覚, メディア, ヒトをはかる, 感性・官能情報, 看護人間工学, イリュージョン
照会先:システム大会事務局
慶応大学理工学部 富田研究室内
〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
(TEL:045-563-1141 ex3510, FAX:045-562-7625)
E-mail tomita@thx.appi.keio.ac.jp
http://www.thx.appi.keio.ac.jp/j-ergosc.html
学会Webページ内:
http://plaza8.mbn.or.jp/~jes/events.html

☆日本OR学会第43回シンポジウム

日 時:2000年3月26日(日)
会 場:愛知大学 車道校舎
名古屋市東区筒井2-10-30
テーマ:ゲームの理論とオペレーションズリサーチ
照会先:学会Webページ内
http://www.orsj.or.jp/labo.html

☆日本応用数理学会創立10周年記念講演会

—21世紀への新たなるパラダイムを求めて—

日 時:2000年5月12日(金)
会 場:中央大学駿河台記念会館
JR(地下鉄)御茶ノ水駅下車徒歩3分
照会先:日本応用数理学会事務局
TEL&FAX 03-5684-8649
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsiam/

公募情報

以下の公募は, 応募期限の早い順に並んでいます. 応募資格等, 研究者等の公募情報の詳細については, 文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記 WEB ページも参照して下さい.

http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm

ただし, 以下には, 同ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります.

☆奈良女子大学生活環境学部

所 属:人間環境学科生活文化学専攻
採用人員:助教授または講師1名
専門分野:比較生活文化論(生活文化学に興味があり, 歴史学, 民俗学, 地理学, 文化人類学, 社会学, 生活学, 家政学などの領域から, 多面的に研究・教育できる者)
採用予定:平成12年7月1日あるいは10月1日
応募期限:平成12年3月15日
照会先:奈良女子大学生活環境学部人間環境学科生活文化学講座・主任 上野邦一
Tel & Fax: 0742-20-3478

☆大妻女子大学社会情報学部

所 属:社会社会情報学科社会生活情報学専攻経済情報領域
採用人員:助教授または講師1名
専門分野:経済学(経営学を含む)を専攻し, 今後, 新たな視点から社会・生活・情報についても研究する方
採用予定:2001年4月1日
応募期限:2000年3月31日
照会先:大妻女子大学社会情報学部社会生活情報学専攻主任 教授 前納 弘武
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2－7－1
Tel:042-339-0036 Fax:042-339-0044
e-mail:maeno@otsuma.ac.jp

☆統計数理研究所

1)所 属:調査実験解析研究系 パターン解析研究部門
採用人員:文部教官 助教授 1名
研究分野等:データ科学, 統計的データ解析に関する方法論及び応用研究
採用予定:平成12年7月1日以降の早い時期
応募期限:2000年3月31日
2)所 属:調査実験解析研究系 パターン解析研究部門
採用人員:文部教官 助手 1名
研究分野等:データ科学, 統計的データ解析及びその関連領域に関わる研究
採用予定:平成12年7月1日以降の早い時期
応募期限:2000年3月31日
3)所 属:調査実験解析研究系 空間事象研究部門
採用人員:文部教官 助手 1名
研究分野等:空間事象(主として自然科学における)の統計的解析・統計モデル構成の研究を進める方を望みます
採用予定:平成12年7月1日以降の早い時期
応募期限:2000年3月31日
4)所 属:予測制御研究系 数値的最適化研究部門
採用人員:文部教官 助教授 1名
研究分野等:データに基づく推論のためのモデリングと推論計算の理論と応用の研究
採用予定:平成12年7月1日以降の早い時期
応募期限:2000年3月31日
以上1)～4)の詳細な公募要領は下記参照。
http://www.ism.ac.jp/kyoin-koubo.html
照会先:〒106-8569 東京都港区南麻布4－6－7
統計数理研究所 管理部庶務課人事係
(TEL 03-5421-8707 ・ FAX 03-3443-3552)

☆国際基督教大学教養学部

所 属:教養学部 社会科学科
採用人員:助教授以上(準教授または教授)
担当科目:社会学(理論／文化社会学／人種とエスニシティの社会学／STS--科学・技術・社会／社会変動など)
採用予定:2001年4月
応募期限:2000年3月31日
照会先:教養学部 社会科学科
Tel;(0422)33-3177 または33-3176
E-mail: ss-office@icu.ac.jp

☆ 東邦大学理学部
所 属:理学部教養科
採用人員:助教授または講師1名
専門分野:数理経済学
担当授業:経済学, 数学系科目(線形代数など), 特論(金融論, 数理ファイナンスなど)
採用予定:平成12年10月1日
応募期限:平成12年3月31日
照会先: 東邦大学理学部教養科 主任 小栗 貢
又は 志村 道夫(主任代行)
〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1
Fax: 047(475)1855)
小栗:Tel:047(472)3528
(e-mail:moguri@med.toho-u.ac.jp),
志村 TEL:047(472)3566
(e-mail:mshimura@c.sci.toho-u.ac.jp)

会員の著書等

☆ 丹後俊郎「統計モデル入門」 朝倉書店, 2000年.

☆ 武藤真介「STATISTICA によるデータ解析」 朝倉書店, 2000年.

☆ 佐伯 胖・松原 望(編)「実践としての統計学」 東京大学出版会, 2000年.

☆ 柳井晴夫・前川眞一(編)「大学入試データの解析ー理論と応用」 現代数学社, 1999年.

☆ 渡辺直登・野口裕之(編)「組織心理測定論ー項目反応理論のフロンティア」 白桃書房, 1999年.

☆ 村上宣寛・村上千恵子 「性格は五次元だったー性格心理学入門」 培風館, 1999年.

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを, できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」
〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL: 0298-53-3071, FAX: 0298-53-3072
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学総合文化研究科生命科学専攻
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数
(1999年2月現在)

正会員	974人
準会員	46人
名誉会員	6人
賛助会員	22社

編集後記

会報担当になってから, いつの間にか3年がたち, 私達の担当もいよいよ今回までとなりました。会員のみなさまにとって意味のある情報を掲載することをめざしたつもりですが, お役にたてたものがありましたら幸いです。また, 多くの方々に原稿をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。次回からは新しい広報担当理事に交代いたします。乞う, ご期待!

会報原稿送付先
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)

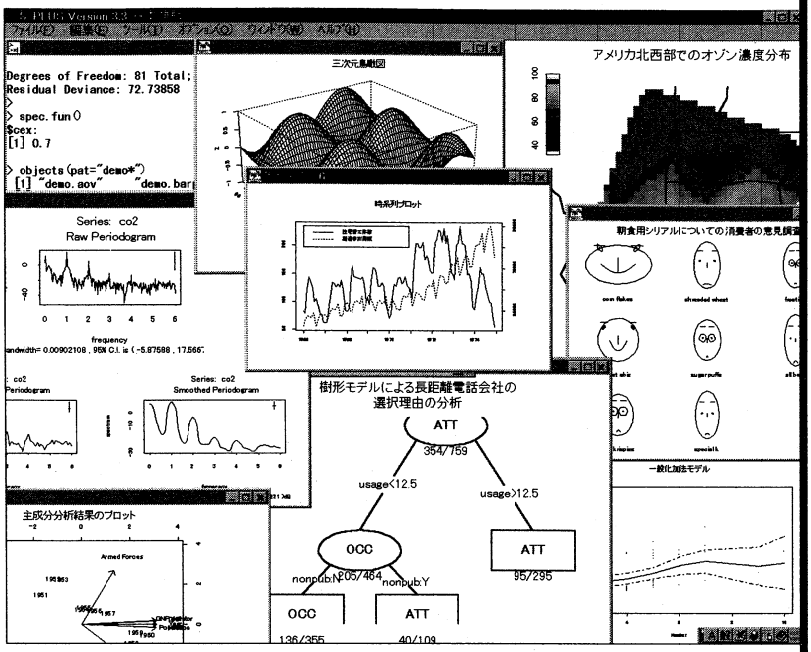
☆☆☆WEBページ情報☆☆☆

日本行動計量学会 WEB ページ
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

日本行動計量学会第28回大会 web ページ
ttp://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/index.html

MATHEMATICAL SYSTEMS INC.

創造あふれる研究開発のための
オブジェクト指向データ解析システム



S-PLUS

全国の著名企業・研究機関・大学での豊富な実績を誇ります

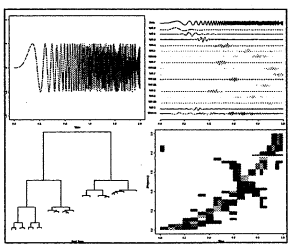
S-PLUSは高度なデータ解析機能と豊富なグラフィックス機能の両方を備えた本格的なデータ解析システムです。
対話型の素早い明快な処理で利用者の創造性を大幅に支援し、オブジェクト指向に基づく卓越したデータハンドリング能力により、データの可視化・再加工・再解析というフィードバックループを納得いくまで何度も繰り返すことができます。

主な特長

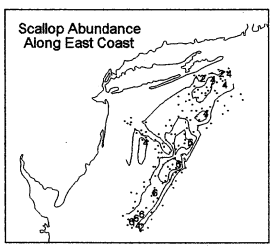
- 一千以上の高度で最新の解析機能
  (基本演算、行列演算、探索的データ解析、線形代数、時系列解析、多変量解析、各種回帰分析、分散分析、線形モデル、検定、シミュレーション、OR　その他)
- 数十種類のカスタマイズ自在なグラフィックス機能。
- オブジェクト指向のS言語による本格的なプログラミング機能により、個別の解析システムを簡単に構築できます。GUI構築ツールを備え、DDEやOCBCにも対応します。
- 常設のトレーニングコースその他の強力なサポートでソリューションを側面支援します。数理科学を専門とするスタッフが、個別のコンサルティングにもお応えします。

特定分野ソリューションのためのアドオンモジュール

- S+WAVELETS　話題のウェーブレット解析のための500以上の機能
- S+DOX　実験計画法のための数多くの関数とグラフィックス
- S+SpatialStats　環境・資源工学などで話題の本格的空間統計モジュール
- S+GARCH　金融工学などで話題のGARCHモデルのために
- S+AVS　高性能3次元CGツールとAVSとのリンクモジュール
- S+GISlink　地理情報システムARC/INFOデータを本格的に解析可能



S+WAVELETS



S+SPATIALSTATS

対応機種、OS	主要UNIX *SunSPARC、HP9000、IBM(AIX)、DECalpha (UNIX)、SGI、NEWS*	Windows *DOS/V、PC98(Windows95、NT)*

※S-PLUSはMathSoft,Inc.が開発しライセンスしています。
※AVSはAdvanced Visual Systems Inc.が開発しライセンスしています。
※会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
(詳しい製品情報はS-PLUSホームページhttp://www.msi.co.jp/splus/をご覧ください。)

S-PLUS無料紹介セミナー定期実施中
当社新宿セミナールームにて、一人一台のパソコンを用いてS-PLUSをご説明さしあげています。お気軽にお申し込み下さい。

S-PLUSおよびAVSのお問い合わせ先

株式会社 数理システム S-PLUSグループ
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3 フォーシズンビル10F
TEL.03-3358-6681(直通) FAX.03-3358-1727
e-mail:splus-info@msi.co.jp(URL)http://www.msi.co.jp/splus/
お問い合わせ:平日10:00～17:00(FAX、e-mailは24時間随時)